

健康診査、保健指導の評価に関する研究 分担研究報告書

分担研究者 日 暮 眞

〈リサーチ・クエスチョン〉

1. 保健指導指針の見直し
2. 乳幼児健康診査の評価
3. 訪問指導のあり方を見直し

〈研究目的〉

母子保健事業の一環として実施されている乳幼児健康診査は、社会の変容とともにそのあり方の再検討が求められている。本研究班では受診者側のニーズ、健診体制のあり方、健診内容の充実等に十分配慮した検討を行う予定である。さらに、現代にあった「保健指導指針」改訂、訪問指導のあり方、健診でみつけれられた障害児の保健・医療・福祉の包括的ケアシステムの構築、保育における課題、母性健全育成のための保健指導のあり方等の研究を行う。

〈研究方法〉

- (1) 「保健指導指針」改訂のための検討
- (2) 乳幼児健診の集団方式と委託個別方式の評価
- (3) 保健指導における訪問指導の位置づけ及び訪問指導の現状の検討
- (4) 地域における障害児の保健・医療・福祉を包括化していく上で改善されるべき課題の検討
- (5) 出生前小児保健指導ガイドライン作成のため、モデル事業対象地域でのヒアリング
- (6) 育児における父親の役割を検討するためのアンケート調査と保健指導の場への父親参加の可能性の模索
- (7) 母子保健従事者がAIDS教育に関わるための準備
- (8) 発語障害児の communication 能力の発達促進方法としての「Sounds and Symbols」活動発展のための検討

〈研究結果〉

- (1) 改訂作業にあたり配慮した諸点の主たるものは以下の事項である。
 - ①時代的背景へマッチさせる ②「市町村の時代」の強調 ③用語への配慮
 - ④多様化する親のニーズへの対応 ⑤「父親」の役割の明示より詳しい内容については別途「解説」（厚生省監修）を作成する。
- (2) 保健所を中心として行われている集団方式による乳幼児健診はほぼ満足できる状況と考えられる。委託個別方式による乳幼児健診については長所もあるが、問題点が少なくない。
- (3) 保健婦の実践的活動に即して、その主なメリットとデメリットを整理すると、次のような点があげられよう。

メリット：①患者や家族に対して、生活の場に即した具体的な指導やケアができる ②家族関係の調整ができる ③患者や家族との信頼関係ができやすい ④主治医等に対して、家庭の状況や生活背景を説明できる ⑤ケースマネジメントがしやすい

デメリット：①保健活動として非効率的である ②訪問の実態が見えないため、職場などで理解されにくい ③技術的にマンネリに陥りやすい ④技術的に自信がないと、訪問指導を敬遠しやすい
- (4) 二次健診で問題となった児の地域社会で効率よい事後措置をするため、①保健所が果し得る役割 ②医療担当病院での問題点 ③福祉（含児童相談所）に関する課題 につき検討し、それぞれ以下の点を提示したい。
 - ①保健所内に発達評価と指導のできるクリニックの開設 ②公立大病院での精密健診公費負担業務の簡素化と広域・複数日受診の可能 ③環境リスク児への入園費の公費負担化、児童相談所のあり方の再検討
- (5) 「出生前小児保健指導」事業の発達が年度半ばであったため、事業の評価を行えるほどの例数はなかったが、多少とも妊産婦の不安軽減に有用との感触が得られた。
- (6) アンケートのパイロット・スタディー中
- (7) 母子保健事業者がAIDS教育に関する際のあり方、注意、方法について検討中で、これらを基にして手引きの作成をする予定である。
- (8) 対象児に対する field 調査と実用化への指導中である。

〈今後の課題〉

- (1) 母子保健活動における対人保健サービスが市町村へ移管された際、乳幼児健診の内容として診るべき事項の check
- (2) 個別健診と集団健診の可否を論ずるのではなく、対人保健サービスが市町村へ移管されることを前提として、地域での健診の評価をする。その評価として具体的な index を用いて評価を試みる。
- (3) 訪問指導の有用性があるのか否か、どのような事例に訪問指導の有効性があるのかの検討
- (4) 保健・医療・福祉の連携をはかる際の coordination 機能として保健所を想定した場合、保健所が果し得る役割の検討
- (5) 一調査検討の継続
- (6) 一調査検討の継続
- (7) 児童福祉施設職員をも含めた母子保健担当者のAIDSに対する意識調査をし、これをふまえて彼ら向きの手引書を作る。
- (8) 「Sounds and Symbols」を利用する対象人口、事例の提示をする。同時に医療関係者との連携もはかる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



<リサーチ・クエスチョン>

1. 保健指導指針の見直し
2. 乳幼児健康診査の評価
3. 訪問指導のあり方の見直し

<研究目的>

母子保健事業の一環として実施されている乳幼児健康診査は、社会の変容とともにそのあり方の再検討が求められている。本研究班では受診者側のニーズ、健診体制のあり方、健診内容の充実等に十分配慮した検討を行う予定である。さらに、現代にあった「保健指導指針」改訂、訪問指導のあり方、健診でみつけられた障害児の保健・医療・福祉の包括的ケアシステムの構築、保育における課題、母性健全育成のための保健指導のあり方等の研究を行う。